

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0901004

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武中央地区 ○事業期間 平成20年度～平成26年度 ○総事業費 1,240,000千円 ○事業内容 用水路工 L=33,530m
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 土地基盤の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	水利施設整備事業(基幹水利施設整備型)雄武中央地区	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	北海道	関係課	#N/A	
事業指標	農業用排水整備	関係課	#N/A	
事業目標	管路33,530m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	1 住民の関与が有る	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計 画 内 容	牧草を基幹作物とする酪農専業地帯であり、保水性に乏しい重粘性土壌が広く分布した無水地帯である。かんがい期間中の降水量も少なく、干ばつ被害が頻発し営農を阻害している。畑地かん施設の導入により粗飼料の高位安定及び品質の向上を図るとともに営農労力を節減し、粗飼料生産の向上により酪農経営の安定を図る。	調査設計一式 国 50% 道 27.5% 町 22.5% (内起債対象: 全体事業費×6.25%)	調査設計一式 管路9,968m 総事業費350,000千円	管路4,500m 総事業費300,000千円	管路10,531m 総事業費310,000千円	管路8,500m 総事業費232,600千円	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	288,135	19,800	78,750	67,500	69,750	52,335
	財源内訳						
	国庫支出金	8,000		8,000			
	道支出金	14,530					14,530
	地方債	70,400	5,500	12,500	18,700	19,300	14,400
その他	65,490	5,500	21,870	18,750	19,370		
一般財源	129,715	8,800	36,380	30,050	31,080	23,405	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	228,549	15,271	75,906	30,870	60,130	46,372
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	29,590				16,710	12,880
	地方債	53,400	4,200	12,500	7,400	16,600	12,700
その他	33,790	4,240	21,080	8,470			
一般財源	111,769	6,831	42,326	15,000	26,820	20,792	
関 連 事 項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等) 調査設計一式	(実施内容等) 管路10,479m	(実施内容等) 管路4,435m	(実施内容等) 管路8,360m	(実施内容等) 管路8,207m
	◎起債(過疎対策)						
	◎食料供給基盤強化特別対策事業補助金	【評価・実績】					
			※前年度評価結果	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値	調査設計一式	調査設計一式・管路9,968m	管路4,500m	管路10,531m	管路8,500m
	年度達成率	77%	96%	46%	86%	89%	
	全体達成率	5%	32%	42%	63%	79%	
	事業進捗状況	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	

事業名	水利施設整備事業(基幹水利施設整備型)雄武中央地区	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	石井 弘道
		評価者 作成者 職氏名	産業振興課長補佐	辻 栄 浩 二

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道営水利施設整備事業(基幹水利施設整備型)受益者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	管路整備延長	
【抱える課題やニーズは】	干ばつによる営農への影響		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	畑かん施設の導入による粗飼料の高位安定及び品質の向上	① L=33.53km/全体整備延長	目標年度	平成24年度
			目標値	33.530 km
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	粗飼料生産を拡大し、酪農経営の安定を図る	②	実績値	31.481 km
			達成度	93.9 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	管路整備	北海道の工事発注によって、管路8,207mが整備された。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	国営事業の関連事業として位置付けられた事業であり、末端の畑かん施設を整備することにより、粗飼料の高位安定及び品質の向上を図るため、必要な事業である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	粗飼料生産の向上により、酪農経営の安定を目指すうえで有効であるが、道の予算の関係により計画を下回っている状況である。
	<input type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業主体は北海道であり、事業を進めるにあたり都度協議を行い、測量試験費の軽減を図るなど、事業費抑制策を講じている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

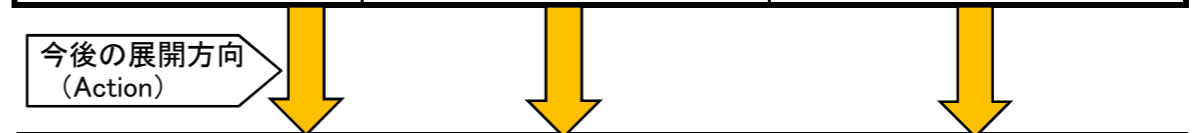
公平	判断の理由	末端の畑地かんがい施設利用者から利用料を徴収するものであり、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
国の予算の関係から若干遅れが見られるが、畑かん施設を導入し粗飼料の高位安定等を図る事業であることから、計画のとおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
営農労力の軽減、粗飼料生産の向上により、酪農経営の安定化が図られるので、引き続き最優先して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止